

山岳科学総合研究所 友の会公報

2011年11月 創刊号



もくじ

ごあいさつ 友の会会長 山口 孝	2
事業概要の報告	2
上高地こどもキャンプ	3 ~ 4
• 第1回 (7月31日)	
• 第2班 (8月6・7日)	
• 第3班 (8月19・20日)	
会員リレーコラム	5 ~ 6
• 小林 実 「上高地の紅葉 真っ最中(10月15日)」	
• 鈴木 大地 「長野県との出会い」	
• 中村 秋男	
会員研修会のお知らせ	6
編集後記	6

ごあいさつ

友の会会長 山口 孝



穂高の稜線から吹きおろす寒風がとても冷たく感じる今日この頃、会員の皆様は益々御健勝の事と存じます。

この度、友の会の会長に就かせていただいた山口孝と申します。私のような未熟者にこのような大役は無理とお断りしましたが、どうしてもということでお受けした次第です。

私は小屋番として涸沢ヒュッテにおり、会合の度に出席するのはなかなか困難かと思えます。会員皆様の御協力と御指導をいただきながら、会の運営を進めて行きたいと思えます。

本年度は設立準備に追われ、立ち上げてからの会合もとれず、バタバタと終わってしまった事に関しては、皆様に深くお詫び申し上げます。次年度に向けては、友の会皆様の御意見やアイデアをいただき、中身の濃い研究所の活動支援と会員相互の楽しい交流を目指して行きます。

上高地のみならず、長野県全域、しいては世界中の山々に皆様と御一緒に出かけられたら・・・と願っております。

友の会設立以来5か月が経ちました。これまで試行錯誤で運営してきました。経過とこれからの事業概要について報告します。

1. 事業報告（中間）

- ・ 設立総会 5月28日
- ・ 上高地談話会（涸沢）7月8・9日
- ・ 上高地こどもキャンプ
第1回：7月30日 第2回：8月6・7日 第3回：8月19・20日
- ・ 第1回運営委員会 9月30日
- ・ 第2回運営委員会 10月22日

2. 今後の事業予定

- ・ 会員総会及び研修会（横山勝丘氏講演会）12月22日
- ・ 視察研修（乗鞍高原）24年2月頃 ※12月の会員総会までに詳細を決定します。
- ・ 第3回運営委員会 2月（24年度事業計画等の検討）

3. 収支予算状況

収入の部	項目	金額	備考
会費	正会員	387,000	129名
	家族会員	30,000	6家族
	学生会員	3,500	7名
	賛助会員	150,000	15件
寄付金・雑収入		78,000	
合計		648,500	

支出の部	項目	金額	備考
管理費	事務費	150,000	事務用品・会報等送料
事業費	設立総会	54,712	
	こどもキャンプ	199,101	3回分
	研修会	150,000	講師謝礼・交通費外
	予備費	94,687	
合計		648,500	

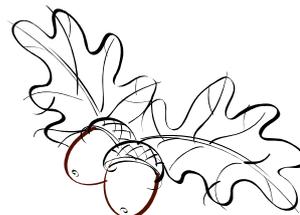
上高地こどもキャンプ

東京電力福島原子力発電所の放射能漏れという重大な事故が、多くの人々の生活を一変させました。予測もしなかった避難生活、こどもたちも生まれ育った家や、仲の良い友達と別れての避難生活を余儀なくされました。

友の会としてもこうしたこどもたちに、心の安らぎをもたらすようなことができないだろうかと思案し、福島県飯舘村のこどもたちを招待しようとしていた松本市と協力して、夏休み3班に分かれて訪れたこどもたちを、上高地キャンプとして受け入れました。

この事業に際し、様々なご協力をいただきました自然公園財団、日本アルプス観光また会員の家族や友人の皆様、そして学生諸君に心から感謝を申し上げます。

以下その概要を報告します。



第1回（7月31日（日））参加者：24名、スタッフ：12名

天候の不安と緊張の中、大正池にてスタッフ全員でお出迎え。昨日のバス長旅の疲れで少し元気が出ないこどもたちと対面した。用意したバッジと名札におやつを配りながら、大正池のほとりへ。焼岳が何とか見えた。残念ながら穂高岳は姿を現さず、自然研究路を歩き田代池を目指す。



こどもたちは歌を歌ったりしながらも、梓川の清流に少しなごんできた。上高地温泉ホテルの計ら

いで「足湯を楽しみ」少し休憩。お昼は天候を気づかい上高地活動ステーションとなった。いろんな協力で何とかお昼ご飯「ハヤシライス」をごちそうさま。

NHK ニュース9の取材も同行し、少し緊張気味だったが「河童橋」を渡ってビジターセンターに、清水川の清流といわなのお出迎えも喜んでもらった。日帰りの日程なので、時間も限られて十分に上高地を満喫とはいかなかったが、帰りの笑顔にスタッフ一同少し安心して初回のキャンプを終了した。

（小林 久雄 記）



第2回（8月6日（土）～7日（日））参加者：19名、スタッフ：11名

みれどもみえず

こども達とは手をつないで歩いた。『ゴミをしない、動物にえさをあげない、木や草を取らない』……三つのお願いには「バスの中で聞いた3」。河童の引率小旗はいつしか彼ら彼女らの手にわたり、行き交う人々と挨拶を交わしながら先頭に行く。

小梨平では水遊び、花火にキャンプファイア、（曇り空で星空観望はなかったが）ナイトハイク、花いちもんめ、三度の食事。

こども達だけでなくスタッフものびのびとしていられたのは、つきあいは子どもの時からというお母さん達がいたからだった。そのお母さん達からは、「雨に濡れるのも久し振り」、野菜サラダには「生野菜は県外産ばかりで高くて買えない。安心して食べられた」とも聞いた。

福島飯館から長時間バスに揺られて来てくれたこども達とお母さん達との時間は、みているようでみていなかった原発をより深く考えるきっかけを与えてくれた。

（宗亭 正治 記）



第3回（8月19日（金）～20日（土））参加者：20名、スタッフ：10名

抱きしめたいこどもたち

ひたすら川に石を投げる男の子、いつかまた同じ学校で勉強しようと誓い合う女の子……。全国に広がる原発事故の波紋をじかに感じたキャンプだった。

高学年の児童が多かった3回目は、明神の上高地ステーションを利用し1泊2日で行なわれた。

あいにくの天気で、日程を若干変更したもののほぼ予定通り明神に着き、荷物を置いて明神池を見学し、明神橋の上流でゲームや水切りそしてスイカ割りなどを楽しんだ。

夕食はBBQや焼きそばなどを用意したが、野菜のリクエストが多かったことは避難地域での生活の厳しさの一面をみた思いだった。

夕食後には花火やナイトハイクを行い、22時には就眠。夜半にトタンをたたく雨もあり、よく眠れなかったこどもたちも多かったようだ。

2日目も朝から雨模様。朝食をステーションの食堂で摂っていただき、ささやかな思い出を胸に元気に帰って行った。

小さな胸が原発事故におののき、不安でいっぱいの子がこどもたちの言動や行動に表れていた。それでも一生懸命に生きようとする前向きな姿も見ることができた。

容易なことではないにしても、1日も早くもとの平穏な生活が戻ることを祈りたい。

この経験を基に、上高地の恵まれた環境を活用して、友の会としての新たな事業を創出していければと思う。

（奥原 仁作 記）



上高地の紅葉 真っ最中 (10月15日)



急勾配の釜トンネルを抜けると、左に北アルプスで唯一煙を吐いている焼岳(2455m)まもなく大正池(大正4年焼岳の爆発で出来た)西穂高・ジャンダルム・奥穂高岳(3190m日本で3番目に高い)前穂高岳(3090m)と3000m級の山々が見える、上高地へ来たと感動する。バスターミナルの周りには大正時代に植えた唐松がまわりを囲んでいる。河童橋は、3人に1人は上高地と云えば河童橋というほどである。(今の所に橋がなかった頃、着物を頭に掛けて渡った・いかにも河童が出そうな場所だった・などから河童橋と名付けられたと云われている)

河童橋より下流、煙の立つ焼岳、上流には、西穂高岳・奥穂高岳・前穂高岳と絶景である。写真家のメッカである。人・人・人で写真もゆっくり撮れない。

河童橋から1~2分で清水川、全長200mばかり六百山からの湧水で世界一短い川と云われ、水量は毎秒900ℓで一年中水量は変わらず雨が降っても濁らず、水温も6~7℃で変わらない。又、信州の名水・秘水に2010年登録され各旅館の水道もここより引かれ、登山者も帰りには持って帰る人も多い。上高地には北海道十勝にしかない化粧柳が自生しており、これから枝先が赤くなり春先には白粉したように白くなる。典型的な氷河期の遺種と云われている。

明治の初めまで牛・馬それぞれ200頭もいた牧場でもあったが、S9年に閉鎖された。江戸時代、上高地は松本藩が治めており、六百山で666本の木材を切り出していた。長い材木は徳本峠から当時走っていた鉄道で送り、短い材木は梓川に流し現在の中央道島立インターの下に土場という所がありそこまで流していた。今もそこには碑がたっている。

日本の三口鳥と云われる、ウグイス・オオルリ・コマドリが見られ、三口鳥が一ヶ所で見られる所は日本でも少ない。

動物も多く(熊・カモシカ・ニホンサル・テン・オコジョ・キツネ・蝙蝠・蛇など)特にニホンサルは人気の一つである。3つの群れがいて1群れは30~40匹。今年は子ザルも多く、登山者と一緒に歩いている。

花も春夏秋とそれぞれ多く目を瞠るところ。上高地は別天地のようであり、一度は来て欲しい場所である。年間150万人が訪れる中で地元の来訪者は少なく、特に松本市民の来訪は少ない(昨年度0.03%)。1994年は208万人でピークに達したが、自然保護でマイカー規制を実施、2009年には130万人まで落ち込んだ。ここ数年は徐々に増加傾向にあり、昨年は150万人弱に回復。最近是中国・韓国・台湾などの海外からの観光客が多くなっている。

地元の皆さんにもっともっと来て欲しい。

友の会運営委員 上高地ガイド 小林 実



長野県との出会い



はじめまして。数少ない学生会員ということで運営委員会に置かせていただいている信州大学工学系研究科1年鈴木大地です。

私が長野県と出会ったのは高校の林間学校でした。林間学校は蓼科山の根元、女神湖の側にある桐陰寮という施設で行われ、その施設に惚れ込んでしまったのが始まりです。当時は長期休業のたびに桐陰寮に行き、夏は登山、秋はきのこ狩り、春冬はスキーと遊びまわっていました。そんな中で長野県に暮らしてみたいと思い、信州大学に入りました。現在は鈴木先生の研究室で西穂・上高地・乗鞍高原をフィールドとして雪の研究をしています。

若輩者ですが友の会の一員としてもっと頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

信州大学工学系研究科1年 鈴木 大地



私は山の自然に魅せられて信州の山々を登ってきました。最近
は山の頂上近くまで車で行けるところもありますが、登山口から
一步一步踏みしめて登ると、そこには様々な風景や風の匂いや、鳥の鳴き
声、せせらぎの音など飛び込んできます。夏は地面から立ち上がる熱気や、
尾根を歩くじりじりした暑さは苦しいものですが、山頂に立った時の満足
感は何物にもかえがたい達成感を感じました。



よく山登りは人生にたとえられます。あれが頂上だと思って登って行ってもそこは単なる
ピークで、本当の山頂には一度山を下って更に登らないといけない。そんな苦しい事ばかり
ですが、しばらくするとまた登りたくなる。苦しさを引き換えに素晴らしい自然の姿を私た
ちに見せてくれる。そんな自然ですが、実は繊細で壊れやすいものである事をその後知りま
した。私達はそんな自然に対して、畏敬の念を持たなければならないと思います。

友の会運営委員 中村 秋男



会員研修会のお知らせ

日時：2011年12月22日（木）午後3時から

会場：信州大学理学部C棟2階大会議室

内容：

〈1部〉会員総会

友の会の運営や事業そのほか様々なご意見をいただき、今後の会運営の参考とさせてい
たきます。※ご意見のある方は事前に（メール・FAX・郵送で）お寄せください。

〈2部〉アルパインクライマー横山勝丘氏講演会

信大OBで世界各地の山や岩場に挑戦し続けている横山氏の講演です

【横山勝丘氏 プロフィール】



1979年 神奈川県相模原生まれ 8歳で山に目覚める

1998年 信州大学入学（山岳部入部）

大学院卒業後アラスカに遠征

2009～2010年 北米に遠征以降世界各地の山稜に挑戦

日本を代表するクライマーの一人

2011年度ピオレドール賞受賞他多数のアルパイン関係賞を受賞

〈3部〉懇親会

※会発足以来の懇親会です。多くの会員の皆様のご参加をお願いします。

（横山夫妻も参加予定です。）

時間：午後5時30分から

場所：「凡蔵」松本市大手4-3-5「緑町」（0263-36-4904）

会費：5,000円（学生会員は3,000円）

※こちらは準備の都合がありますので、参加される方は12月15日までに同封した用紙をFAXま
たは郵送でご送付いただくか、メールの場合は同内容をご記入の上送信を願います。

編集後記

友の会が発足したころ緑に輝いていた新葉は色づき、または空に舞い、幾度か土砂災害に見舞わ
れた上高地も晩秋の装いとなりました。それにしても「何もなくとも平穏な日々の幸せ」を多くの
人が感じられたのでないでしょうか。

会報創刊号を出させていただきましたが、編集や内容など十分なものではありません。今後会員
の皆様のご意見ご協力をいただき充実させてまいります。発行は隔月で、次号は1月に発行予定で
す。皆様からのリレーコラムを募集します。

掲載希望者は事務局までお知らせ下さい。

※表紙の写真は渡辺幸雄氏撮影

（友の会会報編集委員会）

山岳科学総合研究所友の会会報 創刊号

発行日：2011年11月9日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp